

MG Chemicals (Manufacturing-JPN)

バージョン番号: **6.6**

発行日: **06/01/2018** 印刷日: **09/08/2018** L.GHS.JPN.JA

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	846
同義語	SDS Code: 846, 846-1P,846-1G, 846-80G,846-3.78L, 846-18.9L
他の製品特定手段	846 カーボン導電性グリス

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	スイッチ用導電性潤滑剤

供給者の詳細

供給者の会社名称	MG Chemicals (Manufacturing-JPN) MG Chemicals (Head office)			
住所	1210 Corporate Drive ON L7L 5R6 Canada 9347 - 193 Street Surrey V4N 4E7 British Columbia			
電話番号	データ無し	+(1) 800-201-8822		
FAX番号	+(1) 905-331-2682	+(1) 800-708-9888		
ホームページ	データ無し	www.mgchemicals.com		
e-メール	sds@mgchemicals.com	Info@mgchemicals.com		

緊急連絡電話番号

会社名	Verisk 3E (暗号: 335388)	データ無し
緊急連絡電話番号	+81 368908677	データ無し
その他の緊急連絡電話番号	データ無し	データ無し

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

分類	該当しない

GHSラベル要素

絵表示:	該当しない
注意喚起語	該当しない

危険有害性情報

該当しない

注意書き: 安全対策

該当しない

注意書き: 応急措置

該当しない

注意書き: 保管(貯蔵)

該当しない **注意書き: 廃棄** 該当しない

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	%[重量]	名称	官報公示整理番号		
			化審法	安衛法	
63148-62-9	80	メチルポリシロキサン	-	-	
1333-86-4	20	<u>カーボンブラック</u>	5-5222, 5-3328	公表	

セクション4 応急措置

必要な応急措置の説明

眼に入った場合	眼に入った場合: ▶ 直ちに水で洗浄すること。 ▶ 刺激が続く場合、医師の手当てを受けること。 ▶ 眼に損傷がある場合、コンタクトレンズの取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合: ▶ 直ちに汚染された衣類すべて(履物を含む)を脱がせること。 ▶ 流水で皮膚および毛髪を洗浄すること。必要に応じて石鹸を使用すること。 ▶ 炎症がある場合には、医師の手当を受けること。
吸入した場合	▶ ガス、エアゾールまたは燃焼生成物を吸入した場合、汚染区域から退去すること。▶ 通常、他の措置を講じる必要はないと考えられている。
飲み込んだ場合	▶ 直ちにコップ1杯の水を飲ませること。▶ 応急措置は通常必要とは考えられていない。懸念がある場合には、医師に相談すること。

医師に対する特別な注意事項

対症療法を行うこと。

セクション5 火災時の措置

消火剤

▶ 粉塵火災の抑制には、砂、乾燥粉末消火器またはその他の不活性物質を使用すること。

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	▶ 発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。
--------------	---------------------------------------------------------

消火活動に関する情報

特有の消火方法	 対防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 呼吸装置を備えた全身保護衣を着用すること。 あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。 水の微細噴霧を利用し、鎮火および火災現場周辺の冷却に努めること。 液体が溜まっている場所には水噴霧しないこと。 高温であると疑われる容器に接近してはならない。 火災にばく露された容器は、安全が確保される場所から水噴霧すること。 火の通り道とならない場所に容器を移動すること(安全性が確保できる場合のみ)。
火災及び爆発の危険性	 ■ 高温分解物は、二酸化ケイ素、少量のホルムアルデヒド、ギ酸、酢酸および微量のシリコンポリマーを含んでいる。 ▶ 上記ガスは発火し、環境によっては、樹脂/ポリマーを発火させることがある。 ▶ シリカに外皮が形成されることがある。外皮下の火災は消火が困難なことがある。 ▶ 刺熱または炎へのばく露による火災の危険性は低い。 ▶ 加熱により、容器の激しい破裂を伴う膨張や分解が生じることがある。 ▶ 燃焼時に分解し、一酸化炭素(CO)の毒性ガスを発生することがある。 ▶ 刺激性の煙を放出することがある。 ▶ 可燃性物質を含むミストは爆発性を有することがある。 燃焼生成物の例: 二酸化炭素(CO2) 二酸化ケイ素(SiO2) 有機物の燃焼による特有の熱分解生成物腐食性ガスを放出することがある。 倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置

セクション 8 参照

環境に対する注意事項

セクション 12 参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

環境有害性 - 流出を抑えること。

- ▶ 全ての発火源を除去すること。
- 直ちに全ての漏出物を除去すること。

▶ 蒸気の吸入、皮膚および目との接触を避けること。 小規模漏出の場合

- 「無いのかん」、ならいなり口での方面になりません。「保護具を着用し、人体への接触を抑制すること。砂、土、不活性物質またはバーミキュライトを用いて漏出物を吸収し、流出を防ぐこと。
- ★ 対き取ること。▶ 廃棄用の表示がなされた適切な容器へ回収すること。

環境有害性 - 流出を抑えること。

中程度の危険有害性

- ▶ 現場から人員を退去させ、風上へ移動させること。
- ▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。
- 呼吸装置を備えた保護衣および保護手袋を着用すること。
- ▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。
- 禁煙。裸火または発火源の使用禁止。
- 大規模漏出の場合 ▶ 換気量を増やすこと。
 - ▶ 安全に対処できる場合、漏えいを阻止すること。
 - 砂、土、またはバーミキュライトを用いて流出を防ぐこと。
 - リサイクル用の表示がなされた容器へ再利用可能な製品を回収すること。
 - 土、またはバーミキュライトを用いて残留物を吸収すること。
 - 固体残留物を回収し、廃棄用の表示がなされたドラム缶に入れ密封すること。
 - 現場を洗浄し、排水路への流入を防ぐこと。
 - ▶ 排水路または水路の汚染が生じた場合、救急隊に報告すること。

個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7 取り扱い及び保管上の注意

安全取扱注意事項

安全な取扱のための予防措置

注: 湿った活性炭は、大気から酸素を除去する。 したがって炭素槽の内部の労働者および活性炭が蓄積するかもしれない囲まれた空間または密 閉された空間の労働者に重度の危険を与えている。 そのようなエリアへ立入る前に、低酸素濃度用のサンプリングおよび試験手順を試みるべ きである; 適切な酸素供給源の有効性を保証するために制御条件を確立するべきである。

- ▶ 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。
- よばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。
- ▶ 換気の良い場所で使用すること。
- 窪地および排水だめでの濃縮を避けること。
- 閉所に入る際は、必ず事前に大気検査を行うこと
- 喫煙、裸火、熱源または発火源となるものを避けること。
- ▶ 混触危険物質との接触を避けること。
- この製品を使用するときには、飲食又は喫煙をしないこと。
- 使用時以外は、容器を完全に密封して保管すること。
- 容器の物理的破損を避けること。
- ▶ 取り扱い後は、石鹸と水を用いて必ず手を洗うこと。
- 使用した作業着は、他のものと分けて洗濯すること。
- 職業労働規範に従うこと。
- ▶ 保存および取り扱いに関する製造者の指示に従うこと
- ▶ 作業環境の安全性を維持するため、空気中の濃度をばく露限度以下に保ち、作業環境を定期的にモニタリングすること。
- 製品で濡れた衣服を皮膚に接触したままの状態にしないこと。

他の情報

- 元の容器のまま保管すること。
- ▶ 容器を完全に密封して保管すること。 禁煙。裸火または発火源となるものの使用禁止。
- ▶ 換気の良い冷乾所に保管すること。
- 混触危険物質および食品容器から隔離して保管すること。
- ▶ 容器の損傷を避け、漏れを定期的に確認すること。
- ▶ 保存および取り扱いに関する製造者の指示に従うこと。

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件

- ▶ 金属缶またはドラム缶
- ▶ 製造者が推奨する容器を使用すること。
- ▶ すべての容器に明確なラベルが貼り付けられていることおよび漏れがないことを確認すること。

細かく粉砕された金属、臭素酸塩、塩素酸塩、クロラミン一酸化物、dichlorine oxide iodates(2塩化オキシドヨウ素酸塩?)、金属硝酸 塩、2フッ化酸素、ペルオキシ蟻酸、ペルオキシフロ酸およびtrioxygen difluoride(2フッ化3酸素?)との反応は、点火または爆発を伴う発 炭素のより活性が少ない型は、酸素、酸化物、過酸化物、オキソ塩、ハロゲン、ハロゲン間化合物および他の 酸化種との適切に親密な接触で点火するか爆発するだろう。 硝酸アンモニウム(硝安)、過塩素酸アンモニウム、次亜塩素酸カルシウムおよ び五酸化沃素の爆発反応が加熱に続いて起こるかもしれない。 炭素は、硝酸と猛烈に反応するかもしれないし、換算温度で三弗化窒素と爆発 的に反応するかもしれない。 窒素酸化物の存在下で、白熱と点火が生じるかもしれない。 質量に対し高い表面積(2000m2/gまで)を示す細か く粉砕されたまたは高度に多孔状の炭素は、酸化性物質の存在下でエネルギーの放出を加速する吸着性および触媒的特性を所有する異常に活性 な燃料として機能するかもしれない。 乾燥した金属含浸活性炭触媒は、取扱い中に、点火を引き起こすのに十分な静電気を発生するかもしれ ない。 300℃で液体のカリウム、ルビジウムまたはセシウムと接触した黒鉛は、空気中で点火し、水と爆発的に反応するかもしれない層間化 合物(C8M)を生じる。 粉末ダイヤと水酸化カリウムの融合は、爆発的分解を生じるかもしれない。

避けるべき保管条件

活性炭は空気に暴露した場合、高表面積および高吸着容量により潜在的な火災危険を表わす。 新鮮に調製された物質は、特に高温度で空気の 存在下で自然に点火するかもしれない。 空気中の自然燃焼は、90-100℃で生じるかもしれない。 空気中の湿気の存在は点火を促進する。 乾 性油および酸化性油は自然加熱と点火を促進する; これらによる汚染は避けねばならない。 不飽和の乾性油(あまに油など)は、空気に暴露し た油の表面積の巨大な増加に起因する吸着の後で点火するかもしれない;炭素中の金属性不純物も酸化速度に触媒作用を及ぼすかもしれない。 綿屑のような繊維状物質の上で、類似しているがより遅い効力が生じる。 活性炭の自然加熱は、活性炭の組成および調製法と関係がある。 木 炭の中にある遊離基は自然発火の原因である。 自己加熱と自然発火は、さらに、様々な蒸気およびガス(特に酸素)の吸着に起因するかもしれ ない。 例えば、活性炭は空気流中において 452-518℃で自然発火する。塩基、トリエチレンジアミンを炭素上で吸着(5%)する場合、自然発 火温度は230-260℃へ低下する。 空気の高い流速において230-260℃で発熱が起こるが、しかし点火は500℃まで起こらなかった。 活性炭と 水素化ホウ素ナトリウムとの混合物は、空気中で、水素化ホウ素ナトリウムの酸化を促進し、木炭の点火およびホウ素ナトリウムの熱分解によ る水素の生成に帰着するかもしれない自己発熱反応を生じる。

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

許容濃度(OEL)

成分に関する情報

出典 成分 物質名 TWA STEL ピーク 注記

日本産業衛生学会 : 許容濃度 (粉塵の許容濃度)	carbon black	カーボンブラック	4 mg/m3	データ無し	データ無し	総 粉 塵 **
日本産業衛生学会:許容濃度 (粉塵の許容濃度)	carbon black	カーボンブラック	1 mg/m3	データ無し	データ無し	吸入性粉塵 *
世界保健機関(WHO) ナノ物質 製造のための提案職業ばく露限 度(OEL)	carbon black	BMDL 45 years (lung dosimetry, model 2)	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
世界保健機関(WHO) ナノ物質 製造のための提案職業ばく露限 度(OEL)	carbon black	BMDL 45 years (lung dosimetry, model 1)	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し

緊急ばく露限度

成分	物質名	TEEL-1	TEEL-2	TEEL-3
メチルポリシロキサン	Dimethyl siloxane; (Dimethylpolysiloxane; Syltherm XLT; Syltherm 800; Silicone 360)	65 mg/m3	720 mg/m3	4,300 mg/m3
カーボンブラック	Carbon black	9 mg/m3	99 mg/m3	590 mg/m3

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
メチルポリシロキサン	データ無し	データ無し
カーボンブラック	1,750 mg/m3	データ無し

物質データ

カーボンブラックのTLV-TWAは、過剰な汚れに関する苦情を最小限に抑えるために推奨される。工業的に製造されているカーボンブラック、または多環式芳香族炭化水素(PAHs)を含有する燃焼発生源に由来する煤煙のみに適用される。カーボンブラック(シクロヘキサンの抽出が可能な画分のもの)にPAHsが含まれている場合、NIOSHではREL-TWA 0.1 mg/m3を提唱しており、同時に職業発がん性物質であるともしている。

このNIOSHのREL-TWAは、データというよりは専門家の判断に基づき設定されている。

この濃度は、測定の実行可能性に基づき正当化されており、安全性を証明したことで正当化されているのではない。

ばく露管理

工学的管理(設備対策)は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理(設備対策)により、通常、作業者が関与することなく、作業者を効果的に保護することができる。 工学的管理(設備対策)の基本:

工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。

放出源の密閉および/または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。

雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。

通常の作業条件下では、全体排気で十分である。過剰ばく露のリスクがある場合には、JIS認可の呼吸器用保護具を着用すること。安全性を確保するために、保護具は正しく装着することが重要である。倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。汚染物質を効果的に除去するために必要となる新鮮な循環空気の「制御風速」は、作業場で発生する汚染物質を含む空気の「脱出」速度により異なる。

汚染物質の種類:	気流速度:	
(静止空気中において) タンクから蒸発した溶剤、蒸気、脱脂剤など	0.25-0.5 m/秒 (50-100 f/分)	
注入作業、断続的な容器充填、低速コンベア輸送、溶接、飛散、めっき(酸性ガス)、酸洗いから生じるエア ゾール、ガス(発生源からの緩やかな放出)	0.5-1 m/秒 (100-200 f/ 分)	
直接噴霧、小型ブースでのスプレー塗装、ドラム缶充填、コンベヤー荷積み、粉砕粉じん、ガス放出(気流が速い場所への放出)	1-2.5 m/秒 (200-500 f/ 分)	
研削、吹き付け加工、タンブリング、高回転機器から発生する粉じん(気流が非常に激しく速い場所への高初 速度での放出)	2.5-10 m/秒 (500-2000 f/分)	

適切な工学的管理方法

各範囲における最適値の決定要素:

下限值	上限値
1: 室内空気流が最少または捕捉しやすい	1: 室内空気流が乱れている
2: 汚染物質の毒性が低いまたは抑制的効果のみを有する	2: 汚染物質の毒性が高い
3: 発生が断続的で少量	3: 発生量が多く、使用頻度が高い
4: 大型排気フードまたは空気流量が多い	4: 小型排気フードまたは局所制御のみ

理論的には、単一の吸入パイプの開口部から遠くなるにつれ、気流速度は急速に落ちる。一般的に、速度は吸入口からの距離の二乗に比例して減少する(単純なプロセスの場合)。したがって、吸入口における気流速度は、汚染源からの距離を考慮して調節すべきである。例えば、吸入口から2m離れたタンクで発生した溶剤を吸引するには、吸入ファンの気流速度は、最低1-~2m/秒(200-~400ft/分)であるべきである。吸入装置の機能に欠陥を生じるような機械的要素を考慮すると、吸入システムを導入もしくは使用する際には、理論上の気流速度に10以上の係数をかけることが不可欠である。

作業場における粒子の蓄積や再循環を防げるよう、またカーボンブラックを大気中から安全に除去できるよう、排気装置を設計すること。 注記:湿潤活性炭は大気中の酸素を吸着するため、活性炭タンクの中や密閉された場所/閉所で作業を行う者に重大な危険をもたらす。そのような場所に入る前に、低酸素濃度のサンプリング試験を行い、十分な酸素が供給されるよう状況を管理すること。

個人保護措置 サイドシールド付きの保護メガネ。 ケミカルゴーグル。 コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収・濃縮することがある。 レンズの装用および使用制限を明記した方針文書を作業の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物 眼/顔面の保護 質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練 を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズ を取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと。レンズの取り外しは、清潔な環境において、 手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59], [AS/NZS 1336 またはその他の国家規格] 皮膚の保護 以下の手の保護具を参照してください。 ▶ ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋を着用すること。 ゴム製などの安全靴または安全長靴を着用すること。 用途に応じて適切な耐久性および適合性を有する手袋の種類を選択すること。手袋を選択する際は、下記項目に重点を置き適切なものを選ぶこ 使用頻度と接触時間 素材の耐薬品性 手袋の厚さ 手/足の保護 手袋の作業性 各国の規格に従い試験された手袋を選択すること(欧州規格EN 374、US F739、AS/NZS 2161.1、その他の国家規格など) ▶ 長時間または頻繁に接触する場合は、保護等級5以上の手袋(欧州規格EN 374、AS/NZS 2161.10.1、その他の国家規格などに従い破過時 間240分以上)を推奨する。 ▶ 接触時間が短い場合は、保護等級3以上の手袋(欧州規格EN 374、AS/NZS 2161.10.1、その他の国家規格などに従い破過時間60分以上) ▶ 汚染物が付着した手袋は取り替える必要がある。 手袋は清潔な手に着用すること。手袋使用後は、手を洗浄しよく乾かすこと。無香料の保湿剤を使用することを推奨する 身体の保護 以下の他の保護旦を参昭してください。 ▶ 防護用密閉服(つなぎ型) ▶ 塩化ビニル製エプロン 他の保護 ▶ 保護クリーム 皮膚洗浄クリー ▶ 洗眼用設備

呼吸器の保護

緊急事態時に現場に進入する場合、または酸素濃度や蒸気濃度が不明なエリアでは、カートリッジ式呼吸器用保護具を使用しないこと。カートリッジ式呼吸器用保護具を着用しているにも関わらず、なんらかの臭いを察知した場合は、直ちにその汚染区域から退去すること。臭いを察知した場合、その呼吸器用保護具が適切に機能していない、蒸気濃度が非常に高い、または、保護具が着用者に合っていないことが考えられる。このようにカートリッジ式呼吸用保護具の使用には制限があるため、適切な状況においてのみ使用が認められている。

呼吸用保護具の等級および種類は、呼吸ゾーンの汚染濃度および汚染物質の化学的性質により異なる。保護係数(保護マスクの外側と内側の汚染物質の比率から算出される)が重要となる場合もある。

呼吸ゾーン濃度 ppm(量)	最大保護係数	ハーフフェイス呼吸器	フルフェイス呼吸器
1000	10	A-AUS	-
1000	50	-	A-AUS
5000	50	エアライン*	-
5000	100	-	A-2
10000	100	-	A-3
	100+	-	エアライン**

- * 連続流型
- ** 連続流型またはプレッシャーデマンド型(陽圧型)

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	Black grease		
物理的状態	液体	比重 (水 = 1)	1.1
臭い	データ無し	n-オクタノール/水 分配係数	データ無し
臭気閾値	データ無し	自然発火温度 (°C)	データ無し
pH (製品)	データ無し	熱分解温度	データ無し
融点 / 凝固点 (°C)	データ無し	粘度 (cSt)	570000
沸点/沸騰範囲(°C)	>200	分子量 (g/mol)	データ無し
引火点 (°C)	300	味	データ無し
蒸発速度	<1 BuAC = 1	爆発性	データ無し
引火性	該当しない	酸化作用	データ無し
爆発範囲-上限(%)	データ無し	表面張力 (dyn/cm or mN/m)	データ無し
爆発範囲-下限(%)	データ無し	揮発成分 (%vol)	データ無し
蒸気圧 (kPa)	0.13	ガスグループ	データ無し

水溶解性 (g/L)	混ざらない	溶液のpH (1%)	データ無し
蒸気密度 (大気 = 1)	>1	VOC g/L	データ無し

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	▶ 混触危険性物質が存在する。▶ 製品は安定していると考えられる。▶ 危険な重合反応は起こらないと考えられる。
危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11 有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

0

物学的影響に関する情報				
吸入した場合	(動物モデルを使用するEC指令の分類に基づく) 有害な健康影響を及ぼす物質または気道刺激性物質とは考えられていない。しかしながら、適正衛生規範 (GHP) に従い、ばく露を最小限に抑え、作業環境下では、適切な制御手法を用いることが必要である。 不揮発性であるため、有害性を有するとは通常考えられていない。			
	シリコーン溶液の急性毒性は高くない。緩下剤的効果がある。 膨満感およびガスを減少させることが知られている。シリコー			
飲み込んだ場合	リン酸塩は腸からはあまり吸収されないため、経口摂取による被害は少ない。健康被害が現われた場合、その症状には、嘔吐、疲労、発熱、下痢、血圧降下、遅脈、チアノーゼ、手首の痙攣、意識障害、重度の身体痙攣が含まれる。 EC指令または他の分類基準により、「飲み込むと有害」に分類されていない。これは、動物またはヒトデータが不足しているためである。しかしながら、既に臓器障害(肝臓や腎臓等の障害)を患っている場合は、経口摂取により、人体に健康障害を引き起こすことがある。物質の有害性または毒性を特定するための現行の定義は、一般的に、疾病や健康障害等を引き起こす羅病量ではなく致死量に基づく。胃腸を刺激し、吐き気および嘔吐といった症状が生じるが現われることがある。しかしながら、作業環境における微量の経口摂取はあまり心配する必要はないと考えられている。 細粒炭素の摂食は、吐き気および便秘を引き起こすことがある。 物質は不活性と考えられ、食品添加剤に使用されることも多いので、吸引の危険性はないと考えられる。 摂食により黒色便を引き起こすことがある。			
皮膚に付着した場合	皮膚接触は、(EC指令の分類に基づく)有害な健康影響を及 入すると、健康被害を引き起こすことがある。 本物質は、皮膚に接触した場合、人によっては皮膚の炎症を 製品の過剰な使用または長期ばく露により皮膚の脱脂、乾燥、	引き起こす可能性	iがあることを示す研	
眼に入った場合	この液体は、(EC指令の分類に基づく)刺激性物質とは考え を特徴とする一過性の不快感を生じることがある。	られていないが、	眼に入った場合、流	発展または結膜発赤(風焼けの症状と同様)
慢性毒性	この製品への長期ばく露により、(動物モデルを使用するEC それでも当然のことながら、あらゆる経路からのばく露を最がんまたは突然変異を生じる懸念があるが、評価材料となる	小限にしなければ	ばならない。	への悪影響が生じるとは考えられていない。
846 Conductive Carbon	毒性	刺激	性	
Grease	データ無し	デー	夕無し	
	毒性		刺激性	
メチルポリシロキサン	経口(ラット)LD50: >35000 mg/kg ^[2]		Eye (rabbit): 100 mg/1h - mild	
	経皮(ウサギ)LD50: >3000 mg/kg ^[2]			
	毒性			刺激性
カーボンブラック	経口 (ラット) LD50: >10000 mg/kg ^[1]			データ無し
	経皮(ウサギ)LD50: >3000 mg/kg ^[2]			
凡例:	1. 欧州 <i>ECHA</i> 登録物質 - 急性毒性 - から得られた値。 2. *の	D値は製造者のSI	DSから得られた値。	特に注記のないデータはRTECSから抽出し
	た値。			
			5. 2 <i>-2-1</i>	
メチルポリシロキサン	眼刺激性を有し、長期ばく露により炎症を引き起こすことがな	ある。刺激性物質	(への反復または長期)	ばく露は、結膜炎を引き起こすことがある。
メチルポリシロキサンカーボンブラック	眼刺激性を有し、長期ばく露により炎症を引き起こすことがる 文献検索の結果、顕著な急性毒性試験データ無し。 警告:IARCにより、グループ2B「ヒトに対して発がん性があ			

生殖毒性

0

眼に対する重篤な損傷性又は眼 刺激性	\otimes	特定標的臓器毒性 - 単回ばく露	0
呼吸器感作性又は皮膚感作性	0	特定標的臓器毒性 - 反復ばく露 :	0
生殖細胞変異原性	0	吸引性呼吸器有害性	0

凡例:

🗶 - 分類対象外/区分外/非該当

🗸 – 分類済み

○ - 分類できない

セクション12 環境影響情報

生態毒性

846 Conductive Carbon Grease	エンドポイント	試験其	期間 (時間)	種		値	出典	
	データ無し	データ	7無し	データ無し		データ無し	データ無	₹ U
メチルポリシロキサン	エンドポイント		試験期間 (時間)		種	値		出典
スプルバジンロギジン	LC50		96		魚類	3.16mg/L	3.16mg/L 4	
						1		
	エンドポイント		試験期間 (時間)		種	値		出典
カーボンブラック	LC50		96		魚類	=1000mg/L		1
	NOEC		96		魚類	=1000mg/L		1

凡例:

 $1.\;IUCLID$ 毒性データ $2.\;$ 欧州ECHA 登録物質 - 生態毒性情報 - 水生毒性 $3.\;EPIWIN\;Suite\;V3.12\;(QSAR)$ - 水生毒性データ (5.) ・水生毒性データ (5.) ・水生毒性データ (5.) ・水生毒性データ (5.) ・水生毒性データ (5.) ・水生毒性データ (5.) ・ルンダーデータ (5.) ・ルンダーデータ から抽出

ミツバチに対して有毒である。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壌	残留性: 大気		
	すべての成分のデータ無し	すべての成分のデータ無し		

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
	すべての成分のデータ無し

土壌中の移動性

成分	移動性
	すべての成分のデータ無し

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

廃棄物の処理要件を定める法規制は、国や地域により異なる。現地で施行されている法規制を確認すること。地域によっては、特定廃棄物の追跡管理が必要となる。

段階的な管理が一般的である(取扱者による調査が必要):

- ▶ リデュース 廃棄物の発生抑制
- ▶ リユース 再使用
- ▶ リサイクル 再生資源の利用
- ▶ 廃棄 (最終手段)

製品/容器/包装の廃棄方法

・ 水本 (はいきでな) 本製品は、未使用の場合や汚染されていないが意図する用途に適さない場合には、リサイクルしてもよい。汚染されている場合には、ろ過、蒸留またはその他の方法による再生が可能な場合もある。 このような判断をする場合、保管寿命も考慮すべきである。取扱い中に物質の性質が変わる可能性があり、その場合には再生利用や再使用が適切とはなり得ない点に注意すること。

- ▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は排水路に流入させないこと。
- ▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は、排出する前にすべて回収し適切な処理を施す必要がある。
- 下水道への排出は国内法規制の対象となることがあるため、常に、その国内法規制の要件を考慮しなければならない。
- 不明な点は、担当当局に問い合わせること。
- ▶ 製造者にリサイクルの可否を問い合わせ、可能な場合はリサイクルすること。
- ▶ 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市町村に問い合わせること。
- ▶ 残留物は、認可を受けた処分場で焼却または埋立処分すること。
- ▶ 容器は、可能であれば再生利用、もしくは認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。

セクション14 輸送上の注意

陸上輸送 (UN): 危険物輸送規制対象外

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR): 危険物輸送規制対象外

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee): 危険物輸送規制対象外

MARPOL 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

該当しない

セクション15 適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

マチ	ルポロシロキサ、	·/631/18-62-0\	に関する適用法令
・スケ	ルハソンロキリ.	/(03148-02-9))に関りる週用広下

| カーボンブラック(1333-86-4) に関する適用法令

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 日本 GHS分類(英語) 日本 化審法 - 既存化学物質 / 新規公示化学物質 (日本語) 日本 化審法 - 既存化学物質 / 新規公示化学物質 (日本語)

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

文書の交付

政令名称 政令番号 カーボンブラック 9-130

名称等を表示すべき危険物及び有害物

政令名称政令番号カーボンブラック9-130

労働安全衛生法

製造の許可を受けるべき有害物

政令名称政令番号該当しない該当しない

関連する法令・条例

危険物 - 酸化性の物	該当しない
危険物 - 引火性の物	該当しない
有機溶剤	該当しない
特定化学物質	該当しない

化管法

分類	政令名称	政令番号
該当しない	該当しない	該当しない

毒物及び劇物取締法

該当しない

化審法

優先評価化学物質	該当しない
第1種特定化学物質	該当しない
第2種特定化学物質	該当しない
監視化学物質	該当しない
一般化学物質	ピグメント ブラックー6, ピグメント ブラックー7

国立在庫状況

国家インベントリ	現状
オーストラリア - AICS	Y
カナダ - DSL	Υ
カナダ - NDSL	N (メチルポリシロキサン; カーボンブラック)
中国 - IECSC	Υ
欧州 - EINEC / ELINCS / NLP	N (メチルポリシロキサン)
日本 - ENCS	N (メチルポリシロキサン)
韓国 - KECI	Υ
ニュージーランド - NZIoC	Υ
フィリピン - PICCS	Υ
米国 - TSCA	Υ
凡例:	Y = 全成分はインベントリーに収載されている。 N = 特定できない、または成分のいずれかがインベントリーに収載されておらず、適用除外にも該当しない。(対象の成分はかっこ内を参照)

セクション16 その他の情報

改訂日	06/01/2018
最初の発行日	06/01/2018

他の情報

製品および各成分の分類は、公式かつ信頼性の高い情報源や、参考文献を使用したChemwatch分類委員会独自の評価によるものです。

SDSはハザードコミュニケーションのツールであり、リスクアセスメントの一助として使用されるべきである。 掲載されているハザードが、作業場やその他の環境においてリスクをもたらすか否かは、様々な要素により決定される。 暴露シナリオを参照することにより、リスクが特定されることもある。 使用規模、使用頻度および現行の設備管理も考慮しなければならない。

定義および略語

PC-TWA: 時間・荷重平均許容濃度 PC-STEL: 短時間許容濃度-暴露限界 IARC: 国際がん研究機関 ACGIH: 米国産業衛生専門家会議 STEL: 短期間ばく露限度 TEEL: 一時的緊急 ばく露限度 IDLH: 生命及び健康に直ちに危険を及ぼす環境空気の状態 OSF: 臭気安全係数 NOAEL:無毒性量 LOAEL: 最小毒性量 TLV: 許容濃度閾値 LOD: 検出限界 OTV: 臭いの 閾値 BCF: 生物濃縮係数 BEI: 生物学的ばく露指標